中国地区の被災状況の報告

山口 修平

(日老医誌 2018 ; 55 : 463)

このたびの豪雨災害においてお亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を表します。また被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

停滞した梅雨前線の影響により、2018年7月5日から8日にかけて西日本を中心に広い範囲で大雨が長時間続き、甚大な被害が発生しました。マスコミ報道では死者が200人を超え、平成に入ってから豪雨災害としては最大の被害となりました。中国地方では、広島県の安芸郡、呉市、東広島市、三原市、竹原市などの被災が大きく、岡山県では倉敷市真備町の河川氾濫被害をはじめ、岡山市、笠岡市などが被害を受けました。山口県、島根県でも小規模ながら被害を受けています。

このような状況の中、7月9日に日本老年医学会の高齢者災害医療委員会の荒井啓行委員長から、被災状況の調査を開始するように指示があり、中国支部では支部の代議員を中心として老年医学会認定施設等の被害状況の情報収集を行いました。広島大学附属病院、山口大学附属病院、日本鋼管福山病院、JA広島総合病院、JA尾道総合病院、済生会呉病院などから被害状況の報告をいただきました。また倉敷市内のクリニックからも真備市の状況報告をいただきました。

日本鋼管福山病院からは、広島県福山市での直接の影響は少なく、周辺からの透析患者などを受け入れ対応などを行っているとのことでした。広島県廿日市のJA広島総合病院でも病院機能に影響はなかったものの、経営母体が共通のJA尾道総合病院で断水、食材不足の影響がでており、非常食の応援などを行っているとの報告がありました。広島県では西部を中心に交通機関の寸断の影響が大きく、物資供給、給水、患者の通院、職員の通勤などに大きな障害が発生している状況で、DMATに従った病院間の緊急協力体制の重要性が指摘されていま

した。

広島県呉市は、鉄道、道路等の交通網遮断により隣の広島市や東広島市との連絡が断たれ、いわば陸の孤島となりました。認定施設である済生会呉病院の松浦秀夫病院長と連絡を取ることができ、断水のために一部の医療業務を一時断念したとの報告がありました。さらに交通遮断により病院職員の通勤困難が発生し、高速船を利用した船通勤などで費用の負担が大きく増大したとの事でした。学会からの支援を提案させていただき、受け入れの要望もあったことから、学会から支援金を送りました。その後、8月8日には松浦病院長から、支援に対する感謝と共に診療がほぼ平常通りに回復したとの報告をいただきました。

また、日本老年医学会が2011年の東日本大震災の際に作成した「一般救護者用災害時高齢者医療マニュアル」を、金沢医科大学の森本茂人先生より送付いただき、中国支部では直ちに配布する準備を行いました。現場の混乱などのために難しい点もありましたが、広島、岡山両県庁の医療担当部署と連絡を取り、避難所等で医療・保健業務を行っているスタッフに配布することが出来ました。被災者の健康管理に少しでもお役にたてたのではないかと考えています。以上簡単ではありますが、中国地方における今回の豪雨災害の状況とそれに対するこれまでの対応を報告させていただきました。

最近の日本は、地震、台風、津波、大雨などあらゆる形の災害がいつでもどこでも発生する状況にあります。高齢者は常に災害弱者になることから、常に備えることの重要性を改めて認識しています。最後に、被災から2カ月近くたちますがまだ復興の途上の所が多くあります。一日も早い復興を祈念しております。(平成30年8月27日)

日本老年医学会中国支部支部長

連絡責任者：山口修平 島根大学内科学第三〔〒693-8501 出雲市塩冶町 89-1〕

e-mail: yamagu3n@med.shimane-u.ac.jp

doi: 10.3143/geriatrics.55.463